



基盤整備実施



### ◆ 誰がどのように・・・？

基盤整備を実施する中、町、地元農家が耕作放棄地や担い手確保について30回程度の話し合いを重ね、道の駅を運営する株式会社、町、地元農家が法人を設立し、高収益作物の生産拡大による放棄地解消、農業経営合理化を推進

**きっかけ**  
条件不利地による  
非効率な営農  
高齢化や後継者不足  
による耕作放棄地の  
増加

**Step 1 (H23~R2)**  
**基盤整備**

- 生産性の向上や耕作放棄地の解消を図るため、区画整理や暗渠排水、農道、水路の整備を実施

**Step 2 (H28)**  
**地域の連携**

- 農地所有適格法人(株)美土里農園を設立
- パート職員を雇用するなど地域の雇用にも寄与

**Step 3 (H29~)**  
**高収益作物の導入**

- 園芸団地化により、いちごやアスパラガスを生産し所得向上を実現



(いちご収穫作業)

イノシシやハクビシンの被害が頻発したため、農園の周囲1,400mにメッシュ柵を設置して対応。



(農産物直売所)



(いちご観光農園)

**Tip**  
**(株)もてぎプラザ**  
「道の駅もてぎ」の運営を手掛ける。ゆずの加工品、町内産米粉や地元産たまごを使用したバウムクーヘンを開発し、地産地消に貢献。加工品等の売上げ増加に伴い、地域の雇用機会の拡大に貢献。高齢化による将来的な農産物の供給不足に対応するため、(株)美土里農園の立ち上げに参画。

### ☆農産物確保に対する将来への備え

(株)もてぎプラザ側でも、加工品の販売など事業運営は順調であったが、地元農家の高齢化による将来的な農産物の供給不足に対応するため、町、地元農家と連携し法人(株)美土里農園を設立したことで安定した農産物の供給体制を確保

**将来に向けて**

- ☑ 観光いちご園を中心とした通年型農業体験施設に発展させ、更なる所得向上を図る
- ☑ 「道の駅もてぎ」や「ツインリンクもてぎ」等との連携により都市農村交流や農泊を推進し、更なる地域活性化に寄与する

今後の展望

**Step 5 (H29~)**  
**実践的研修実施**

- いちご栽培の技術指導等の実践的研修を行い、担い手の育成、新規就農者確保を図る

**Step 4 (H29~)**  
**観光農園・流通**

- いちごの観光農園を開設し、都市農村交流を促進
- 野菜の安定供給が可能となり、道の駅等の流通経路を確保



(いちごの収穫)

(株)美土里農園では、H28の設立時、いちご栽培経験者がいなかったため、指導役を雇用して安定生産を可能とし、観光農園による都市農村交流、道の駅への野菜安定供給が実現。

地域資源保全  
美しい農村  
再工業等  
水利施設整備  
防災・減災力

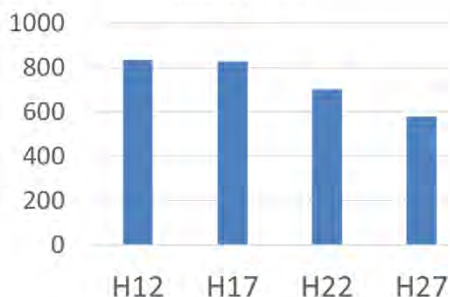
- 地域の農業者が年々減少し、地域資源（農地、農業用水路等）を継続的に保全することが困難となっていた。
- このため、H19から9行政区において多面的機能支払交付金（旧農地・水・環境保全向上対策）に取り組み始め、H28には町全体の16行政区で取り組むようになり、広域活動組織として町全域で活動を実施。
- 多面的機能支払交付金の取組をきっかけに、各活動組織では、地域農業の将来と課題に関する話し合いが行われるようになり、その結果、農地中間管理機構や基盤整備事業を活用して担い手への農地の集積・集約化を推進。

## 取組前

## 農業者の減少

- 町内の16集落全てで「人・農地プラン」が策定されているものの、農業者の高齢化や後継者不足から担い手のいないプランも存在
- 地域の農業者の減少により、草刈り、泥上げ等の共同活動が困難

総農家数(戸)



担い手がなく荒廃した農地

## 取組内容

## 農地・農業水利施設等の保全

- 多面的機能支払交付金（H19～）を活用して、地域ぐるみで共同活動

## 農地集積に向けた話し合い

- 座談会では、農地の出し手や借り手を交えて話し合いを行う
- 町や農業委員会と連携して、人と農地の問題解決に向けた話し合いを推進

## &lt;集落の話し合い&gt;

- 農地所有者へのアンケートの実施  
→ 今後の営農に対する意向確認
- 担い手農家への農地集積の促進  
→ 農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化
- 担い手が耕作しやすいほ場の整備  
→ 農地耕作条件改善事業の活用

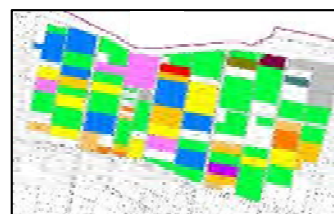
## 基盤整備事業の活用

- 農地耕作条件改善事業等の活用

## 取組後

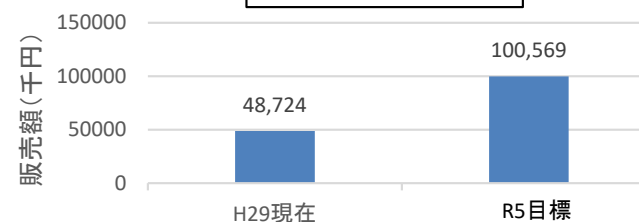
## 担い手の明確化と農地集積

- やじま  
【矢島地区（H27～30）】
- 農地中間管理事業を活用し、農地集積の推進と担い手の分散した耕作地を集約化（農地集積率：49%（H26）→100%（R元））
  - 集積・集約化した農地約10haは、農地耕作条件改善事業を活用し、畦畔を除去して区画を拡大



- しもえぐる  
【下江黒地区（R1～）】
- R1から農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農地集積と農地整備を実施（目標農地集積率100%）

## 農産物販売額の目標





### ◆ 誰がどのように・・・？

農家の減少により草刈り、泥上げなどの共同活動が困難となる中、区長が中心となって話し合いを重ねた結果、多面的機能支払交付金による活動組織を設立し、農地、水路の維持管理を推進

### ☆ 活動組織の話し合いの場の活用

各地区では、町との連携により活動組織の話し合いの場を活用し、人・農地プランの策定、見直しを実施

## きっかけ

農業者が減少していく中、農業生産の継続と共同活動による農地・施設の維持管理が課題

### Step 1 (～H18)

#### 町全体で解決策検討

- 農業生産を継続するため、農地・施設の維持管理を行政区が支援
- 施設の維持管理労力の軽減により、農業者（担い手）が農業に従事しやすい環境を整備

### Step 2 (H19～)

#### 地域共同活動の支援

- 地域資源の維持保全、景観保全等のため、H19から町内9行政区（組織）において取組を開始

多面的機能支払交付金を活用

### Step 3 (H24～)

#### 人・農地プランの策定

- H24に明和町の人・農地プランを策定。地域の話し合いを基に内容を毎年見直し
- 活動組織での話し合いを重ねることにより、水路や農道等の維持管理が集落機能の向上に繋がっているのと認識が醸成されていたことがプランの具現化に寄与

### ◆ 誰がどのように・・・？

町全域を対象に活動する広域活動組織が中心となって各地区で地域農業の将来を話し合い、農地集積などで話がまとまった地区から基盤整備事業により農地の集積・集約化

### ☆ 将来の農家減少への対応

活動組織において地域農業の将来と課題を検討した結果、担い手へのさらなる農地集積が必要との判断に至り、基盤整備を活用した集積・集約化を推進



### Step 5 (R元～)

#### 更なる農地集積の推進（農地整備事業の実施）

- 下江黒地区では、農地中間管理機構関連農地整備事業を実施し、担い手への集積・集約化を推進
- 農業生産法人の設立、農業生産法人の誘致を目指す

### Step 4 (H27～)

#### 担い手への農地集積

- 活動組織の話し合いの場で地域農業の将来と課題を検討
- 矢島地区においては、農地中間管理機構による農地集積と簡易ほ場整備により、農地集積のさらなる推進と担い手の分散した耕作地の集約化を実施
- H28からは、町全域を多面的機能活動支払の広域活動組織として取組を開始し、町全体として、遊休農地の発生を防ぎ、さらに担い手への農地の集積・集約化を推進

農地中間管理事業を活用

今後の展望

## 将来に向けて

- ☑ 当該組織を活動母体に、農地中間管理事業をフル活用し、地域の人・農地プランの話し合いを進めながら、農地の集積・集約化を更に推進する

目標（集積率）R5 48%⇒70%（明和町全体）

- ☑ 農業生産法人の設立、農業生産法人の誘致を目指し、更なる地域活性化を図る

明和町オリジナルキャラクター  
メイちゃん



- 農家の高齢化と担い手不足が進む中、羽生市発戸地区の地域資源である農地や水路を守り、次世代につなぐため、地域で話し合いを実施し、多面的機能支払の活動組織を設立。
- 活動組織が中心となって集落内で話し合いを行い、担い手不足等の集落内の課題や危機感を共有。
- その結果、担い手への農地集積を図るための基盤整備事業を活用するとともに、話し合いを通じて地域活動を拡大。

地区の特徴

平地地域

水稻

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

## 取組前

### 農家の高齢化と担い手不足

#### ほっと 発戸地区

【営農規模】 43ha(平均区画10a)  
【所有者】 173戸  
【作目】 主食用米(43ha)

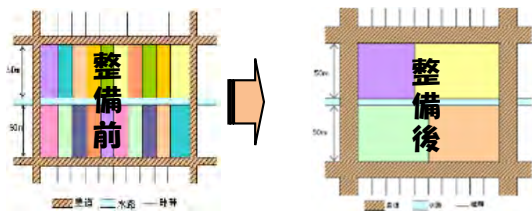
- 区画は、明治から大正にかけての耕地整理で、1反区画に整備され、地区の半分は用排水路が未整備の土水路
- 農家経営は、小規模な稲作農家主体で、平均経営規模は0.3haで、市内で最も経営規模が小さい
- 就業人口の平均年齢は71.4歳と市内で最も高く、高齢化が進んでおり、人口減少による後継者不足



## 取組内容

### ハードとソフトの連携

- 【地域共同作業】  
多面的機能支払制度(H20～)  
○ 農地の法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の補修など地域ぐるみでの共同活動により、農地及び農業用水の地域資源が保全され、多面的機能を発揮
- 【地域の担い手への農地の集積】  
農地中間管理事業(H26～)  
○ 農地中間管理機構とも連携しつつ、今後の地域の担い手への農地集積を実現
- 【区画整理、農道・用排水路整備】  
農地耕作条件改善事業(H27～)  
○ 基盤整備による、区画拡大、農道の拡幅、用排水路の整備により労働生産性が向上し、担い手等の営農経費を節減
- 【施策間の連携】  
○ 農地中間管理事業と農地耕作条件改善事業、そして多面的機能支払制度を同時に実施することにより、生産性の効率化と担い手の確保など事業目的を効果的に実現し、地域振興に貢献



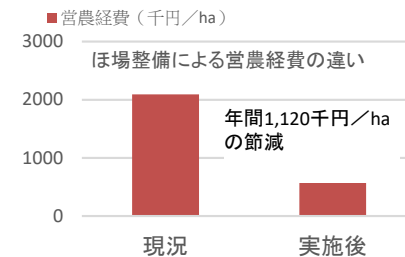
## 取組後

### 担い手への農地集積の推進と地域活動の拡大

#### 担い手への農地集積

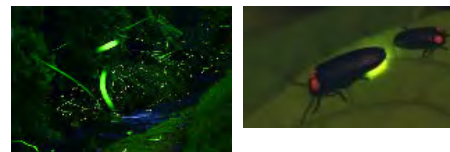
【営農規模】 43ha(平均区画30a)  
【経営体数】 個人3名(18.3ha)、法人1社(15.1ha)、他14名  
【作目】 主食用米:43ha  
【集積面積】 38ha(集積率:目標90%以上)

- 【担い手の確保】  
○ 地域の中心経営体個人3名及び法人1社
- 【農地集積】  
○ ほ区単位に面的集積(地区内農地の集積率:目標90%以上)
- 【農業生産性の向上】  
○ 畦畔除去による区画拡大(10a→30a)と道路・用排水路の整備を実施



#### 【地域活動】

- 1組織 協定農地43ha  
在来生物の育成・保護 蛍鑑賞会の開催  
蛍を通した環境保護教育  
22種類の古代米栽培





◆ **誰がどのように・・・？**  
 自治会長が中心となり地域で話し合った結果、発戸土地改良組合、発戸水利組合、ほっと蛍の会、古代米研究会等をメンバーとする多面的機能支払の活動組織を設立（蛍すむ発戸の環境を守る会）し、農地や水路の維持管理を推進

◆ **誰がどのように・・・？**  
 活動組織が中心となり、地区農業の将来展望について地域で話し合った結果、基盤整備が必要との結論に至り、基盤整備を行うための推進協議会を設立

**きっかけ**  
 担い手の高齢化、維持管理作業の人数減  
 特に若い世代は地域の人や施設、資源に関心が低い

**Step 1 (H20)**  
**多面的機能活動組織設立**  
 ○ 地域で活動している団体（土地改良組合、蛍の会、古代米研究会など）と連携し多面的活動組織（蛍すむ発戸の環境を守る会）を設置  
 ○ 農道、水路の点検、草刈りなどの活動を実施

**Step 2 (H23)**  
**地域の課題の整理**  
 ○ 多面的機能支払の活動組織が中心となって集落内で話し合い  
 ○ 集落の人口、施設等の基本的なことから農業の実態、課題及び集落の将来について話し合い

**Step 3 (H24)**  
**推進協議会の設立**  
 ○ 地元農家組合、自治会など地域が主体となり、発戸地区農業基盤整備推進協議会を設立し、市など関係機関と今後の地域農業の方向性について検討（地域営農ビジョンの作成）

**Step 4 (H26)**  
**地域の合意形成**  
 ○ 耕作放棄地の増加、担い手不足といった課題や危機感を共有  
 ○ 話し合いを通じて、基盤整備事業や農地中間管理事業、多面的機能支払交付金制度を活用した活動を展開



毎年夏には蛍祭りを開催し、地域住民だけでなく、県外からも多くの方が鑑賞に参加し、地域が活性化等

◆ **誰がどのように・・・？**  
 地域の合意形成に向けて、自治会長が中心となって、1年に約10回の話し合いを地域で実施。また、その中で地域住民を対象にアンケートを実施し、地域内の課題等を把握

**将来に向けて**

- ☑ 6次産業化等を含め、収益性の高い作物導入等の生産振興策を図る
- ☑ 農業インターンシップ事業（担い手の育成）による次世代の担い手育成を図る
- ☑ 地域活動を継続することにより、次世代リーダーの育成を図る。

今後の展望

**Step 6 (H28～)**  
**地域活動の拡大**  
 ○ 『蛍すむ発戸の環境を守る会』が中心となり蛍の放流をはじめとする在来生物の保護に取り組む  
 ○ 『古代米研究会』は休耕田を活用し22種類の古代米の栽培に取り組む

担い手を確保し、農地集積が進展

**Step 5 (H27～30)**  
**基盤整備の実施**  
 ○ 大型機械の活用等による農業生産性の効率化のため基盤整備の実施  
 ○ 既存の10a区画を生かしつつ、道路及び水路の整備を進めると共に農地の貸し借りによる農地集積を図る

地域と県・市の一体感が重要（同じ気持ち）  
 耕作できなくなったら考えるのではなく、今、耕作できる人がいる間に道筋を立てることが重要

地域資源保全  
 美しい農村  
 再工業等  
 水利施設  
 防災・減災力

- 効率的な営農を行うため、ほ場の区画整理を行うとともに、用排水の更新等の基盤整備を実施。
- 基盤整備をきっかけに集落営農組織を設立し、水稻、小麦、大豆のブロックローテーションを実施。
- 更なる営農の効率化と規模拡大に向け、スマート農業を活用した省力化の取組。

地区の特徴

平地地域

水稻

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

## 取組前

### 地域の概要

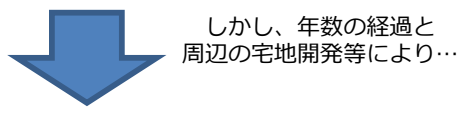
- 千葉県北部に位置する神崎町、利根川洪積平野の平坦な耕地



神崎町

### 国営土地改良事業の実施

- 昭和18～40年に実施された国営土地改良事業により排水施設の整備



しかし、年数の経過と周辺の宅地開発等により…

### 排水機能の低下

- 施設の老朽化による排水機能の低下

### 小区画、排水不良なほ場

- 20～30a／区画の小区画ほ場
- 低湿地、排水不良のため、大型機械の導入や、水稻以外の作付が困難

## 取組内容

### 大区画化及び用排水の更新・整備

- 国営両総事業（H5～26）による
  - ・ 基幹的な排水施設の更新
- 県営ほ場整備事業（H4～11、神崎東部地区）による
  - ・ ほ場の大区画化
  - ・ 用水のパイプライン化
  - ・ 排水対策の強化

### 集落営農組織の設立

大型機械を導入し、ブロックローテーションで水稻、小麦、大豆を栽培

### 農地・水路の保全

多面的機能支払交付金4組織による地域の共同活動※旧農地・水保全管理支払交付金

### 集積した周辺地区で暗渠排水の整備

農地耕作条件改善事業（H29～30、神崎東部地区）

### スマート農業導入に向けた検証

スマート農業実証プロジェクト（R1～）により、更なる営農の効率化に向けたスマート農業技術の検証

## 取組後

### 集落営農組織による大規模水田経営の実施

農事組合法人 こうざき とうぶ 神崎東部

- 【営農規模】 86ha（令和2年度）
- 【作付品目】 水稻60ha、小麦+大豆26ha
- 【構成員】 社員6名、臨時雇用4名

- ・ 汎用化された1ha超の大区画ほ場において、小麦、大豆を取り入れたブロックローテーションを実施



施工前全景(H4)



施工後全景(H11)

- ・ 大型農業機械の導入による営農の効率化  
これにより、少人数で大規模な農業が展開可能
- ・ 更なる営農の効率化・大規模化を見据えて、スマート農業の実証事業を実施中



GPS連動直線キープ田植機の実証実験